

1.映画祭概要

- ・未来の映画監督や才能あふれるクリエイターの発掘、映像文化・クリエイティブ産業への貢献を目的に開催している。
- ・審査員は、堤幸彦監督や清水崇監督をはじめ、プロデューサー、映画ソムリエが務める。
- ・7度目の実施となる本年度は、応募総数過去最多の245作品の中から審査を通過した8作品と特別招待作品6作品が上映され、各賞が決定された後、授与式となった。



《片岡さんと『初恋』制作関係者》

2.『初恋』作品概要(片岡さんコメント)



カフェで向き合うカップル。しかし、その空気は和やかではない。望みが叶わないとわかった女は、男との愛を本物にしようと、計画を実行する。

同じ言葉を使っている、心の内を正確に伝えることは難しい。甘酸っぱい恋の詩が、時には、重たく煩わしい関係に感じられることもある。曖昧な言葉に頼って人と繋がろうとする私たちのあやうさを、島崎藤村の詩「初恋」を通じて描きました。

3.審査員のコメント

「おめでとうございます。僕、エッジの効いた毒気のある作品が大好きなんです。なかなか企画はしないけど。本当、おもしろかったですね。藤村の初恋と、全然、真逆だからね。これは、すごいな。それで、リハーサルなしでね、芝居すごいなあ、俳優さんすごいなあと思いました。だから、皆さん、本を読んで分かったんだね。理解したんだね。だから、生きてるんだね、芝居に。ものすごく、この女性(片岡さん)のお芝居が分かるもんね。全然何もなしで、音なしでセリフもなしで見ても、この作品のねらいがしっかりと分かる。すごい。すごい」
(伊藤プロデューサー)

「してやられたなという感想です。何年経っても、きっと、あの作品かと思いつくような印象的な作品でした。ギミックも素晴らしいですし、お二人のお芝居も本当に素晴らしくて、個人的には、片岡さんに最優秀女優賞を渡したいくらい素敵な狂気じみた女性の役だったなと思います」
(広山女優兼プロデューサー)



4.片岡さんのスピーチ・コメント

「この作品は9月に撮影したもので、この4ヶ月の間に、私自身もメンバーも、学び続けて成長し続けています。これからも映像の世界で頑張っていきたいと思っていますので、応援よろしくをお願いします」

「お芝居が大好きで、伝えるってたのしいなあと思いながら作りました。皆さんにも伝わって本当に嬉しいです」



5.当日の様子

映画祭の様子は公式サイトから視聴可能な他、後日同サイト内にて各受賞作品が受賞者のコメントとともに公開予定(1年間)。



以上